

# 座談会 <わ> の明日を語ろう

グループ〈わ〉は誕生から18年を迎えます。会員数1,360人と大きな組織に成長しましたが、会員の高齢化や世代間意識の相違もあって、活動が複雑になってきています。NPOとして何を目指していくのか？ どういった組織にしていってよいか？ 〈わ〉のあり方が問われる時期にきています。そこで区会、部会、本部などの代表7人に、日頃活動する中で感じていることを、ざっくばらんに語ってもらいました。

出席者

久保正志（中央区会長・国14） 土井昭政（北区会長・国10） 馬場偉夫（木工グループ代表・福16）  
榎矢勝行（むかしあそび研究会副会長・生12） 菅田忠志（花実の森整備プロジェクト代表・生11）  
堺 汎（理事長・園15） 水町亮治（理事・生18） ◆司会 広報・永野知己（敬称略）

（写真は左④から氏名順に）



## 地域で、特技を生かして

**司会永野** 〈わ〉でどんな活動をしていますか

**久保** 地域の高齢者・障害者施設での生活支援や、書道、マジックで施設訪問するなど、区会活動を中心に行っています。

**榎矢** 本部主催のイベントや小学校、児童館で、子どもたちにむかしあそびを教え、ふれあいを楽しんでいます。

**菅田** 県の助成を受け「花実の森プロジェクト」を担当。3月末で5年の指定期間が終了しますが、引き続き、小学生を対象に自然体験学習の受け入れをして行く予定です。

**馬場** 区会の運営委員と木工グループで、工作塾など本部主催のイベントに参加。木工作品の制作、修理、販売も行っています。

**土井** 北区会、国際部会の運営委員として活動する他、小学校の特別支援や車椅子テニス大会の実行委員をしています。

**水町** 児童館での「紙すき教室」「ケナフ染め」など、子どもたちと一緒に楽しく活動。本部では総務を担当しています。

**堺** 本部役員として、会員の皆さんが楽しく活動できるよう目配り、気配り、心配りをして、組織が円滑に進むよう努めています。

## 子どもの笑顔に喜びを

**司会** 活動する中で楽しいこと、嬉しいことは

**馬場** 子どもの笑顔と「おじちゃんありがとう」の言葉が最大の喜びであり、作品作りを通して、木工

の楽しみを子どもたちに伝えたい。

**土井** 何と言っても、嬉しいのは子どもの笑顔。励みにも繋がりますね。（一同うなづく）

**菅田** それに加えて、活動を通じて自然と接することができて楽しい。

**久保** 私も、利用者の笑顔と拍手に、また頑張ろうと元気が湧いてきます。

## 高齢化と活動場所の確保

**司会** 困っていることや悩みはありますか

**菅田** 若手男性の入会者が少ないこと。リーダーの交代がスムーズに運ぶか、不安です。

**土井** そうですね。会員の高齢化と区会長の引き受け手がなく交代できません。

**久保** 中央は46人中18人が区会に参加しており特に問題はないのですが、パソコンを持っていない会員への連絡方法が悩みです。費用をかけずに行うには？

**馬場** 西区会はメールとFAXの他、一部自宅へも配達しています。

**榎矢** むかしあそびは、現役と一緒に活動。会員数200人、毎月の研修会への参加者60人と組織として問題はありますが、技能研修が中々追いつかず、全てをこなせる人が少なくなっています。

**馬場** 木工も現役と一緒に活動しているので、一体感があり〈わ〉への加入率も高い。ただ、活動依頼が減少傾向にあり、活動の場と作品の販売先の確保が課題です。

**土井** 本部は活動の場を提供できるよう、各サークルの動きを把握しておく必要があるのでは？

## 再び学んで…」の徹底を

**司会** その打開策はありますか

**樋矢** 依頼者の期待に応えられるよう人材育成に力を注ぎたい。

**馬場** 本部とも連携して、活動の場、販売先を広げる努力を。各区のボラセン等で情報収集と広報活動を、部員の声を聞きながら進めていきたい。

**菅田** メンバー募集も必要だが、「G学習の延長」として若いグループに活動を継続してもらう努力も大切。〈わ〉の戦力UPや組織の活性化になる。

**土井** カレッジは「再び学んで…」を学生に徹底して欲しい。

**久保** 同感。学生には、入学当初に指導が必要だと感じています。

## 新たな事業を展開

**司会** 助成金の打ち切りで〈わ〉も資金的に苦しい状況ですが、今後どんな活動を

**堺** 時代の流れを見極めながら、①友好団体と協働、②カレッジと協力、③会員間の交流を図る。具体的策として、社協や行政等と連携し高齢者に適した事業や、子ども対象の教育講座を広げたいと考えています。

**水町** 私も、行政や企業の福祉事業部門に働きかけ、共催できるものを探してはと思っています。

**菅田** ボランティアは、求めている側の思いと我々の思いが合致しないこともあり、その辺が難しい。それに、〈わ〉の認知度は上がってきたようだが、高齢化は体力減退も伴うので、実力の物差しを読み違えないようすることも本部の役割だと。

**樋矢** そうですね。むかしあそびは、子ども相手に限定しています。本部は、サークルそれぞれの力や特色を、把握しておいて欲しいですね。

**馬場** 資金不足であれば、収益事業の展開も検討しては？私案ですが、木工では生協が始めた高齢者支援サービス（網戸張替、手すりの取り付け）のようなことも検討したいと思っています。

**久保** 私も興行部を作っては？と。部会には興行に向くサークルが多数あると思いますが…非営利組織に反しますか？

**堺** 商売にするには難しい課題でしょうね。

## 物産販売を拡充

**司会** 東北支援の今後は

**水町** これまでの実績を踏まえて自費参加者を募っては？東北物産は学園祭やボラセン大会でも実施してはどうか。

**全員** 物産販売を広げることは大賛成。

**土井** 東北はこの辺で引いてはどうか。

**馬場** 生活復興が変わってきているので、現地で

は何か必要なのか調査しては。観光支援を広げていけるよう、現役生にもポスター等で呼びかけてはどうでしょう。

**久保** 派遣人数を少なくするなど、資金がかからないような形での継続が望ましい。

**樋矢** お互いが喜べるような支援を。年数に応じた対応は必要でしょうね。

**菅田** 今、考えついたのでが個人同士の文通はどうだろうか。形あるボランティアとは異なった、心が通う支援になるのでは。派遣経費もかからないし。

## 明日に向かって

**司会** 問題点と課題は何でしょう

**土井** 新規入会者も含め、会員の高齢化が顕著となっている。このため、ボランティアの要請がきても引き受け手がなく、区会長の交代もできないのが現状。区会長は任期制が望ましい。

**馬場** 高齢化による会員の脱退と新規入会者の減少により、区会内のブロックの統合が必要となっている。イベントを開催しても参加者は役員が中心。ブロック内の懇親会も参加がありません。

**久保** 中央は今のところ大丈夫ですが、80歳を超える区会長もいるので、任期制にするなどの方策が必要では？区会長同士の話し合いの場が欲しい。

**馬場** 新たな資金源が見つからない場合は、①会費の値上げ、②区会、部会の運営助成金の減額、③ぎゃらりの電子化、④サポート募金の依頼は区会、部会を通じて見える形で実施、⑤〈わ〉独自のイベント活動の新規開拓を検討。合わせて、新規入会者募集は、様々なチャンネルを通じて、より一層努力することが大切ではないでしょうか。

**堺** 会員の高齢化などいくつかの問題点と課題について今、本部で話し合いを進めています。年度内には提言が出される予定です。

## 【座談会を終えて】

区会や部会の現状はどうか、本部の役割は何か、効率的な運営をするにはどうしたらよいか…2月13日、「〈わ〉の明日を語ろう」をテーマに開いた座談会は、難しいテーマにもかかわらず、議論は百出。多くの課題や問題点が浮かびあがりました。背景には高齢化やボランティア活動に対する意識の変化があるようです。すぐには解決に結びつかないものもありますが、話し合いを重ねれば、〈わ〉の将来も拓けるのではないかと感じました。（まとめ 広報・井口久美子）